



1 除染作業を行う作業員 2 山積みになっている仮置き場の除染廃棄物 3 常磐自動車道の開通式の様子(27年3月1日に全線開通) 4 太陽光で発電しドーム内で栽培する植物工場(ドーム型水耕栽培施設) 5 災害防止機能や津波エネルギーの減衰効果を持たせた海岸防災林 6 被災者が安心して生活するための災害公営住宅



福島県 南相馬市 の現状

東日本大震災から4年が経ちました。市では平成24年度から毎年、被災地の福島県南相馬市に職員を派遣し、復旧・復興を支援しています。本年度派遣している職員が、南相馬市の現状についてお伝えします。

問い合わせ 総務課 大石 ☎230050

南相馬市の現状や課題

私は、南相馬市農林整備課整備係で、農業関係の災害復旧業務を行っています。東日本大震災では、津波によって南相馬市内の耕地面積のうち、約3割が流失、湛水しました。県内有数の米産地であった南相馬市ですが、復旧工事や福島第一原発事故で拡散した放射性物質の除染が

進まず、多くの田が耕作されないままの状態です。復旧工事については、膨大な事業量があるにもかかわらず、施工業者や建設資材、人材の不足などで、なかなか進んでいません。

放射性物質の除染については、1軒の家の除染に10人ほどの作業員で約2週間かかります。また、除染によって発生した廃棄物は、仮置き場に

派遣職員

池田 武

主幹 46歳

復旧・復興支援として、平成26年4月から27年3月まで福島県南相馬市に派遣。農業関係の災害復旧業務を担当。



運びられています。本来の保管場所とされる中間貯蔵施設が整備中で、仮置き場に山積みになっています。

復旧・復興に向けた取り組み

こうした厳しい状況にありますが、高速幹線道路の常磐自動車道が、3月1日に全線開通しました。沿岸地域でも、植物工場やメガソーラーの建設、防災林の造成などが進んでいます。また、いまだに仮設住宅での生活を余儀なくされている人たちのために、防災集団移転地の造成や災害公営住宅の整備が、着々と進められています。

まだまだ道半ばですが、市民も市役所も、全力で復旧・復興に取り組んでいます。今回は、写真や文章で現状をお知らせしましたが、全てをお伝えすることはできません。市民の皆さんも南相馬市をはじめ被災地を訪れ、東日本大震災から4年が経過した「今」を肌で感じてください。きっと、災害や防災に対する意識が高まることと思います。

原発はもうやめよう

南相馬市長が牧之原市で講演

- 原子力防災学習会 -



西原市長と対談する桜井勝延南相馬市長

しまつたら、こんな悲惨な状況が続くだけ。地域が悩み、個人が悩み、家族がバラバラになり、多くの犠牲者が出る」と指摘。

「原発はもうやめよう。知恵を出し合い、地域でエネルギーを作り出す仕組みを考えたらどうか」と訴えました。

子どもたちのために

講演後には、西原市長との対談も行われました。

桜井市長は、東日本大震災後も、千年を超える歴史を持つ「相馬野馬追」を絶やさないことについて、「文化伝承のためにも防災を徹底していくことが大事。その結果、子どもたちが、地域を受け継ぐことにつながる」と話しました。

また、「世界的な災害を受けたからこそ、地域を再生しなければならぬ。原発に代わるものをみんなで知恵を出し合い生み出して、子どもたちが安心して暮らせる地域にしていくことが重要」とし、最後に、「日本人の暮らし方が世界遺産になるようにしよう」と会場に呼び掛けました。

進まぬ心の再生

桜井市長は、復旧・復興に向けた災害公営住宅の建設や

平成27年1月29日、原子力防災学習会がいくつらで開催され、市民ら約500人が参加しました。学習会では、福島県南相馬市の桜井勝延市長が、福島第一原発事故の影響を受けている南相馬市の現状や課題について語りました。

除染作業が進む一方、東日本大震災で激減した市内の15歳から64歳までの生産年齢人口が高齢者に比べて回復しない、深刻な状況であると説明。「636人が津波の犠牲になり、まだ111人が家族と会えていない。自殺する被災者もたくさんおられ、生活の賠償はされつつあるが、心の再生は全くできていない」と話しました。また、「事故が一度でも起きて